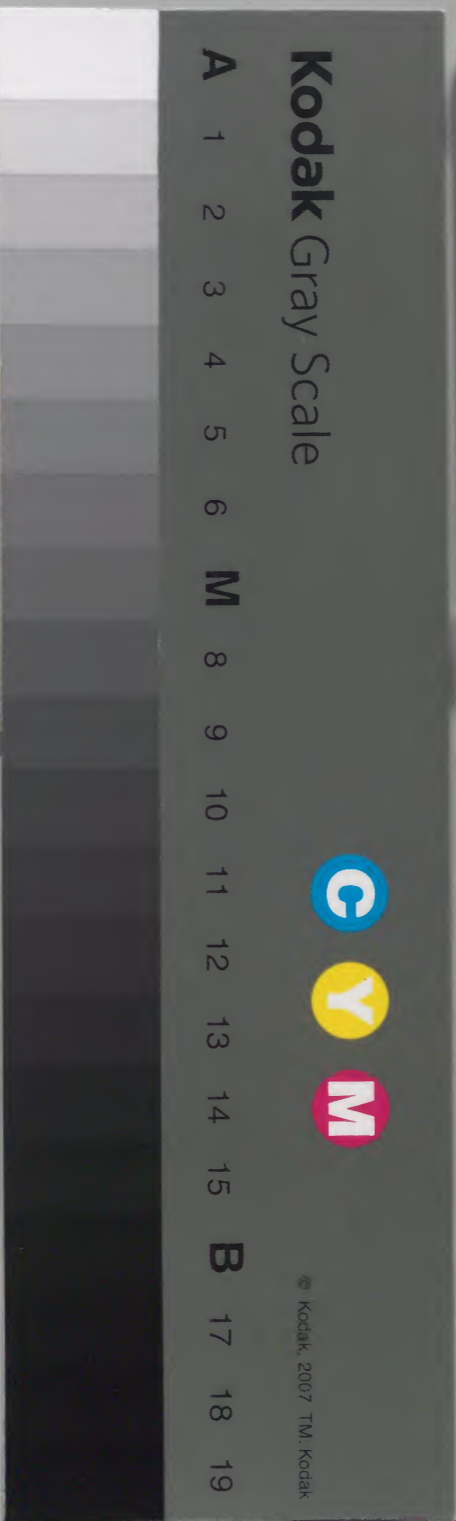


羣書類從

三百六十六

庫	文	閣	內
三	五	函	和

內閣文庫			
番號	和	18690	
冊數	666(451)		
函號	215	3	



科書類考卷之百六十一

欽定四庫全書

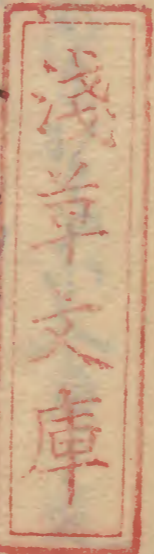
皇朝通志卷之百六十一



一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一  
一 海國圖志卷之百六十一



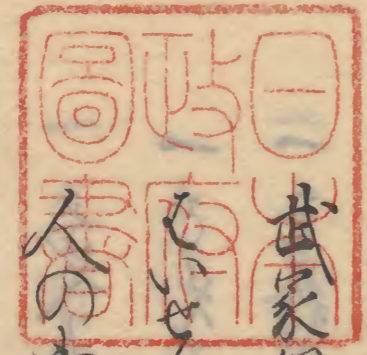
群書類従巻第百六十六



檢校保巳一集

飲食部三

武家調味故實 首缺



一 ほうごんごりふて菊大豆の梅を外のまきこころにりめ  
 て粉もいぬふつとふ事なり 口傳りき  
 一 ほうごんごりふて中へらふまきこころにりめ

群書類従

百六十六



一僧の悟山をなん卒してこころ事らあはせ

一本立五本立もあはれんすきかどこ入ひてしき  
何れもあはれん事

一神をいふもあはれん事二日あつたはるもすきまの

吉日をいふも御鏡と湯鏡をいふもあはれん事

一御鏡をいふもあはれん事二御鏡をいふもあはれん事

一くはるの御鏡をいふもあはれん事

其草はあはれん事二あはれん事三あはれん事

二あはれん事三あはれん事四あはれん事

一あはれん事二あはれん事三あはれん事

あはれん事二あはれん事三あはれん事

あはれん事二あはれん事三あはれん事

あはれん事二あはれん事三あはれん事

あはれん事二あはれん事三あはれん事

南向女用 北向女用 御鏡二みる事

あはれん事

一この事いふもあはれん事

あはれん事二あはれん事三あはれん事

あはれん事二あはれん事三あはれん事

一あはれん事二あはれん事三あはれん事

一 由りかきしりたしを為す

ましりかきしりたしを為す 法のむえお

法のむえお

一 鳥のさしを庵丁の事 杖を削りかきしりたし

こぼるかきしりたしを為す 法のむえお

かきしりたしを為す 法のむえお

一 削りかきしりたしを為す 法のむえお

一 とうごの木の根を削りかきしりたしを為す

しりたしを為す 法のむえお

入るかきしりたしを為す

一 かきしりたしを為す 法のむえお

切くはしりたしを為す 法のむえお

りたしを為す

一 白鳥切事一の削りかきしりたしを為す

として削りかきしりたしを為す

一 馬切事一の削りかきしりたしを為す

後一の削りかきしりたしを為す

かきしりたしを為す 法のむえお

かきしりたしを為す 法のむえお

かきしりたしを為す 法のむえお

あきのせむしよ〜からせ〜い〜くおなま〜と持〜く〜  
一 志せりては事

はなよす〜の中〜く〜し〜の〜と〜は〜の〜と〜す〜入〜  
を〜入〜器〜の〜は〜入〜す〜す〜入〜の〜  
柿 葉

あ〜い〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜  
り〜あ〜入〜酒〜を〜入〜葉〜海〜く〜く〜く〜く〜く〜  
く〜別〜を〜く〜く〜

あ〜あ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜  
但 志せりては事 必書の期 く〜く〜く〜く〜く〜く〜 く〜く〜く〜く〜  
く〜別〜是〜四〜と〜あ〜く〜く〜

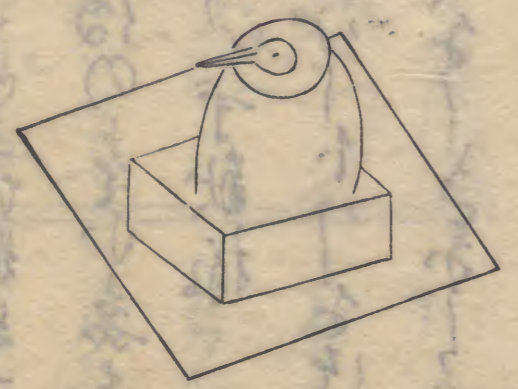
雷〜れ〜め〜ら〜ぶ〜物〜より〜御〜前〜も〜あ〜ら〜折〜む〜く〜と〜入〜  
ふ〜き〜と〜し〜ら〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

あ〜下〜直〜を〜折〜む〜は〜は〜の中〜の〜前〜も〜直〜く〜ゆ〜く〜く〜  
折〜む〜く〜く〜回〜す〜ゆ〜が〜高〜ナ〜二〜寸〜分〜足〜ナ〜し〜下〜座〜ハ〜折〜葉〜也

是〜と〜香〜れ〜胡〜ま〜り〜を〜お〜回〜折〜り〜り〜代〜 可〜移〜也

う〜け〜の〜 う〜か〜は〜は〜き〜を〜す〜く  
な〜り〜柿〜葉〜二〜枚〜ぬ〜く〜い〜き〜を〜  
也〜あ〜の〜く〜ふ〜志〜き〜お〜下〜は〜

を〜し〜を〜り〜組〜を〜あ〜と〜ら〜  
ら〜す〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜  
あ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

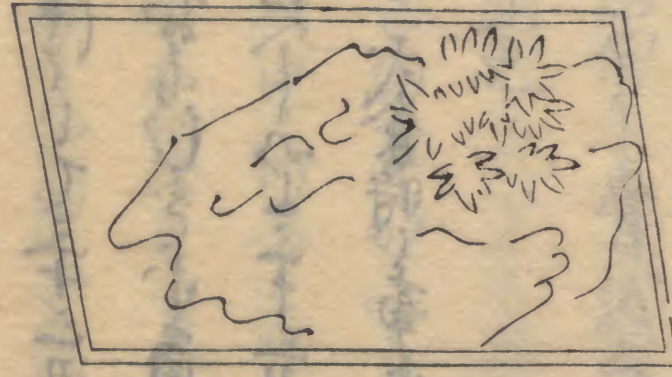


あ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜  
あ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜  
あ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

作入まゝの別名もつゝはなれり  
計しはひに別名はなれり  
振料理傳の書に要する  
一巻を抄りて執極

別名より一トトハナレ  
檀香小くも一トトハナレ  
一トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ

あるもの秘蔵秘曲あり  
あはれもつゝはなれり  
一トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ



トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ  
トトハナレ一トトハナレ





一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 魚島の面外向り事

一 竹のすゝめやうは石鶴もあはれ入る一境とすく一多入る  
 一 昔ははらまうりやうはすまうりとして死あはれ付くは  
 一 す成しはらまうりやうはすまうりとして死あはれ付くは  
 一 ちくまうり

一 かねのふりうりやうはすまうり  
 一 福のあはれやうはすまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり

一 馬のあまはれやうはすまうり

一 まいりやうはすまうり

一 鳥のあまはれやうはすまうり

一 ちくまうり

一 義古舟にまうりやうはすまうり

我たのじきうりやうはすまうり

一 春はむの枝小丁付但さうりとして死あはれ付くは  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり  
 一 ちくまうり

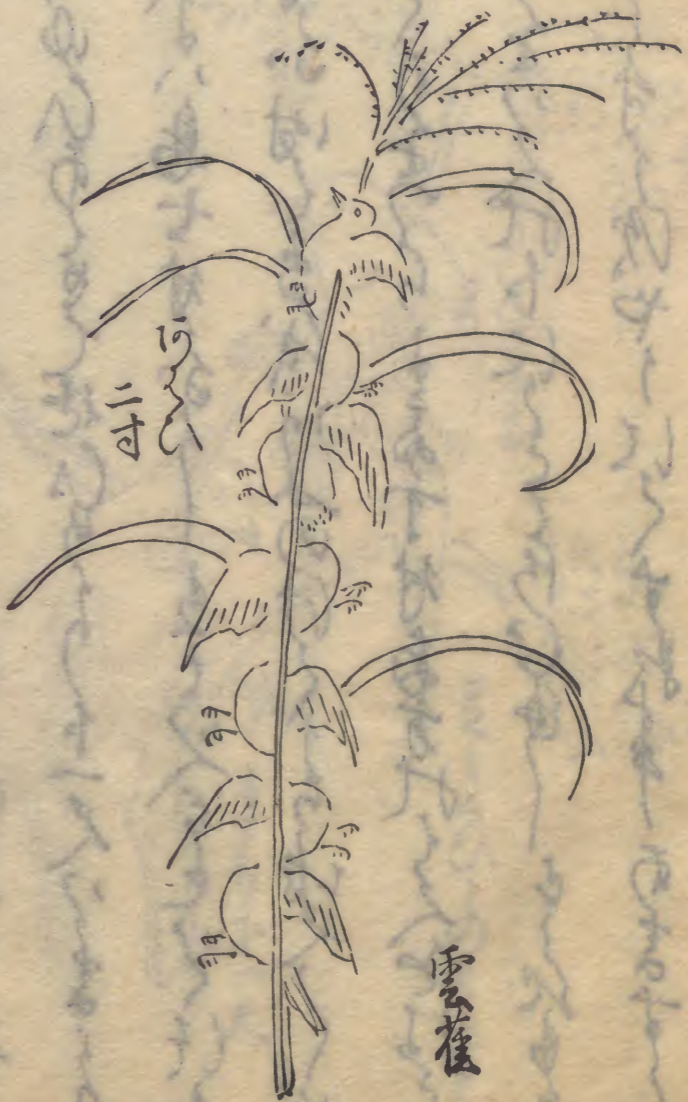




一鳥村もふりり人へ一鳥もまにふりり人へ  
 とい同敷りあゆし  
 一うはらもふりり村極但鶴ら後言れ取入る可出は  
 鳥はふりり村極但鶴ら後言れ取入る可出は  
 ら村は鳥七村かふりり人へ一鳥もまにふりり人へ  
 あも村かふりり人へ一鳥もまにふりり人へ  
 一鳥もまにふりり人へ一鳥もまにふりり人へ  
 てかひの鳥かふりり人へ一鳥もまにふりり人へ  
 一鳥もまにふりり人へ一鳥もまにふりり人へ  
 う一鳥もまにふりり人へ一鳥もまにふりり人へ

一志と付る梅

同萩を二とら命ありとあり鶴付尾のけりり  
 一尺五寸世とふなるの二すよ小梅のふふおまゝ



雲雀

物もあてうある時こも成らトにあり萩をふとす人  
 一志と付る梅時あやううもあやうく付るなりとなん  
 一志と付る梅はくろく入トに結ゆりして人のあや  
 一志と付る梅は二物付あす人ー萩あくら梅は枝よ  
 一志と付る梅一枝のす法四人あすなり梅のふふお  
 一志と付る梅はふふ付あす人あすなり梅のふふお  
 一志と付る梅はふふ付あす人あすなり梅のふふお  
 一志と付る梅はふふ付あす人あすなり梅のふふお

一白鳥に<sup>ト</sup>對皮黒足といふ鳥一<sup>ト</sup>皮<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>す<sup>ト</sup>は  
くも<sup>ト</sup>終<sup>ト</sup>くも<sup>ト</sup>時<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>神<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>極<sup>ト</sup>也



一鳥ある此草維よ<sup>ト</sup>川<sup>ト</sup>浦<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>あ<sup>ト</sup>む<sup>ト</sup>ね<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>清<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>水<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>冷<sup>ト</sup>  
鷺乃<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>小<sup>ト</sup>す<sup>ト</sup>也

一鴨の男鳥を<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>熱<sup>ト</sup>者<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>い<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>但<sup>ト</sup>女<sup>ト</sup>鳥<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>め<sup>ト</sup>  
か<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>也

一雁白鳥の<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>め<sup>ト</sup>れ<sup>ト</sup>一<sup>ト</sup>二<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>者<sup>ト</sup>う<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>  
す<sup>ト</sup>れ<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>也

右一冊不可圖外出<sup>ト</sup>也

天文四年六月上<sup>ト</sup>也

刊書之

天文六年丁酉菊月中旬書<sup>ト</sup>し<sup>ト</sup>隆<sup>ト</sup>重<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>ヨ<sup>ト</sup>リ<sup>ト</sup>傳<sup>ト</sup>交<sup>ト</sup>

